閑泉樋南遺跡

— 発掘調査報告 —

昭和61年

前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

閑泉樋南遺跡調査報告を刊行することができました。この報告書が斯学の研究に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

本遺跡は、昭和58年２月に発掘調査した閑泉樋遺跡と道路をへだてた南側に位置する。

閑泉樋遺跡では、推定上野国府域を考える上で重要な大溝を発見した遺跡である。そこでマンション建築に先だち大溝及び国府域を研究する上でも重要な地であるため発掘調査を実施することになった。

調査の成果としては、古墳時代後期の住居跡を発見することができた。

調査区北側に東西に走る巾５ｍほどの溝が発見されたが国府域にかかわるか不明であるが今後の調査研究に負うところが多いものである。

調査にあたり㈱藤田プロモーター作業員さん、地主等に多大な協力を得られたことに記して感謝申し上げます。

昭和61年３月１日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　奈良　三郎

例　　言

1　本書は貸住宅建設に伴い、事前調査された前橋市元総社町に所在する閑泉樋南（かんせんといみなみ）遺跡の調査報告書である。

2　調査は確認調査を前橋市教育委員会が行ない、本調査を山武考古学研究所が行なった。

3　遺跡の所在地及び調査期間は下記の通りである。

所在地　　前橋市元総社町２丁目８－７

調査期間　確認調査　昭和60年５月22日

本調査　　昭和60年６月25日～７月25日

4　本書の遺物・図面の整理は根本時子、富田弘子の協力を得て、千田幸生が行なった。

5　本書の執筆は第１章、第１節を浜田博一が行い他は千田幸生が行なった。

6　本書に使用した写真は千田幸生が撮影した。

7　本書の編集は千田幸生が行ない、所長平岡和夫が総括を行なった。

8　発掘調査から本書刊行に至るまで下記の機関の御指導、御助言を賜った。記して感謝の意を表す次第であります。

前橋市教育委員会　（株）岡田工業　（株）藤田ビジネスプロモーター

9　発掘作業参加者

飯塚昭子　碓井享祐　碓井フミ　太田一郎　小川悦子　加藤八重子　金井福次郎
木村本次郎　木村妙子　小暮トミ　近藤六三郎　佐々木勇　高橋豊美　春山光男
松田隆次　真庭卯平　真庭トシ　柳原久仁江　山田義定

凡　　例

1　本書中に使用した遺構番号は現地調査において使用したものをそのまま用いた。この為土坑には欠番となるものがある。

2　本書に使用した北は磁北を表わす。

3　遺構の挿図の縮尺は住居址・土坑は60分の１、カマドは30分の１、溝は80分の１、全測図は200分の１を用いた。

4　スクリントーンは焼土の範囲を示す。

5　遺物の挿図の縮尺は⅓を用いた。尚、溝出土遺物は¼、古銭は½を用いた。

6　遺物の写真横に付した番号は、挿図中の番号と一致し、写真を割愛した遺物の番号は欠番となっている。

7　遺物の番号については、現地作業において用いたものを改訂して収録した。このため現地作業の番号は遺物の一覧表の備考覧に収録した。

本　文　目　次

序文
例言
凡例
第１章　調査に至る経過と組織
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
第２章　遺跡の立地と考古学的環境
　第１節　遺跡の立地 …… 3
　第２節　考古学的環境 …… 3
第３章　調査の経過
　第１節　調査の方法 …… 5
　第２節　日誌抄 …… 6
　第３節　土層 …… 6
第４章　検出された遺構と遺物 …… 7
　第１節　住居址 …… 8
　第２節　竪穴状遺構 …… 19
　第３節　土坑 …… 19
　第４節　溝 …… 23
　第５節　遺構外出土遺物 …… 24
第５章　まとめ …… 25
参考文献 …… 26

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　遺跡周辺図 …… 4
第３図　グリッド配置図・トレンチ設定図 …… 5
第４図　標準堆積土層模式図 …… 6
第５図　遺跡全測図 …… 7
第６図　１号住居址実測図 …… 8
第７図　１号住居址出土遺物(1) …… 9
第８図　１号住居址出土遺物(2) …… 10
第９図　２号住居址実測図 …… 11
第10図　２号住居址出土遺物 …… 11
第11図　３号住居址実測図(1) …… 12
第12図　３号住居址実測図(2) …… 13
第13図　３号住居址出土遺物 …… 15
第14図　４号住居址実測図 …… 16
第15図　４号住居址出土遺物 …… 17
第16図　竪穴状遺構実測図 …… 18
第17図　土坑実測図 …… 20
第18図　２・７号土坑出土遺物 …… 20
第19図　１・２号溝実測図(1) …… 21
第20図　１・２号溝実測図(2) …… 22
第21図　１号溝出土遺物 …… 22
第22図　遺構外出土遺物 …… 24

表　目　次

表１　１号住居址出土遺物観察表 …… 10
表２　３号住居址出土遺物観察表 …… 14
表３　４号住居址出土遺物観察表 …… 17
表４　１号溝出土遺物観察表 …… 23

図　版　目　次

図版１　１．確認全景　西→東 …… 27
２．１号住居址遺物出土状況
３．同
４．同
５．同

図版２　１．１号住居址完掘 …… 28
２．２号住居址遺物出土状況

図版３　１．３号住居址遺物出土状況 …… 29
２．同
３．３号住居址貯蔵穴
４．３号住居址カマド
５．３号住居址完掘状況

図版４　１．４号住居址カマド …… 30
２．４号住居址完掘状況

図版５　１．竪穴状遺構完掘状況 …… 31
２．１号土坑
３．２号土坑
４．５号土坑
５．８号土坑

図版６　１．１号溝Ｂトレンチ遺物出土状況　南→北 …… 32
２．同　西→東
３．１号溝Ｃトレンチ遺物出土状況　南→北
４．同　西→東
５．１号溝Ｄトレンチ遺物出土状況　南→北
６．同　西→東

図版７　１．１号溝Ｅトレンチ遺物 …… 33
出土状況　南→北
２．同　西→東
３．１号溝Ｇトレンチ遺物
出土状況　西→東
４．同　完掘
５．１号溝Ｃトレンチ完掘状況
西→東
６．１号溝Ｄトレンチ完掘状況
西→東
図版８　１．１号溝Ｅトレンチ完掘状況
西→東 …… 34
２．２号溝遺物出土状況
西→東
３．発堀調査終了全景　西→東
図版９　１号住居址出土遺物 …… 35
図版10　１・２・３号住居址
出土遺物 …… 36
図版11　３・４・号住居址出土遺物 …… 37

図版12　１号溝、２・７号土坑
出土遺物 …… 38

第１章　調査に至る経過と組織

第１節　調査に至る経過

60年４月19日　前橋市元総社町2071番地の２、関口良作氏より前橋市教育委員会あて、貸住宅建設に伴う表面調査依頼が提出される。予定地は総社町二丁目８－７、現況は畑、面積は873㎡である。

60年４月22日　表面調査の結果、当該地域には原始・古代の土器が散布し、隣接して閑泉樋遺跡も確認されているため試掘調査の必要がある旨、４月30日に申請者あて回答。

60年５月７日　申請者より試掘依頼が提出される。

60年５月22日　試掘調査を実施。トレンチ４条を入れた結果、古墳時代の住居跡２軒、溝２条、土坑４基を検出し、土師・須恵片も多数見られた。

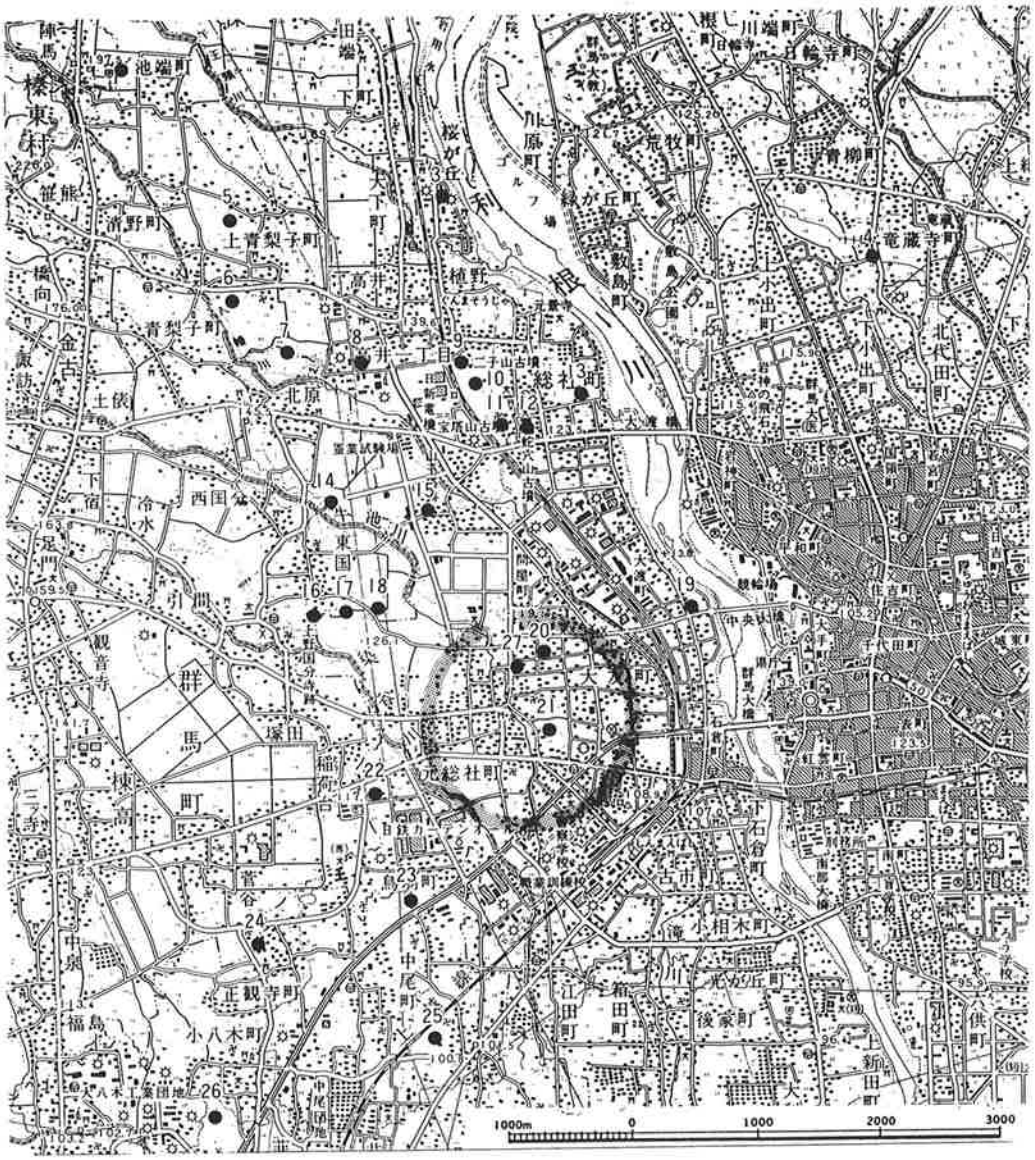
60年５月29日　試掘結果を申請者に回答。

60年６月17日　当該地開発施工者である㈱藤田ビジネスプロモーターより市教委あて発掘調査依頼が提出される。

60年７月１日　前橋市埋蔵文化財発掘調査団で調査を受託し、現場調査は山武考古学研究所へ委託することでそれぞれ委託契約を締結。61年３月31日までを調査期間とし調査に着手。

第２節　調査の組織

団　　長	奈良三郎	(教育次長)
発掘調査指導	平岡和夫	(山武考古学研究所　所長)
〃	大和久震平	(　同　調査研究室長)
担当者	千田幸生	(　同　調査研究員)
事務局	前橋市教育委員会	



1. 閑泉樋南遺跡、2.清里・陣馬遺跡、3. 総社桜ヶ丘遺跡、4. 青柳寄居遺跡、5. 庚申塚遺跡、6. 清里南部・中島遺跡、7. 下東西遺跡、8. 柿木遺跡、9. 総社二子山古墳、10. 愛宕山古墳、11. 宝塔山古墳、12. 蛇穴山古墳、13. 遠見山古墳、14. 国府境遺跡、15. 山王廃寺、16. 国分僧寺、17. 国分寺中間地域遺跡、18. 国分尼寺、19. 王山古墳、20. 閑泉樋遺跡、21. 元総社明神遺跡、22. 鳥羽遺跡、23. 中尾遺跡、24. 正観寺遺跡、25. 日高遺跡、26. 大八木遺跡、27. 国府推定地域

第１図　遺跡位置図

第２章　遺跡の立地と考古学的環境

第１節　立地

本遺跡は国鉄上越線新前橋駅の北北西約1.8㎞、利根川右岸榛名山南東麓に位置する。榛名山南東麓は相馬ヶ原扇状地を形成し、その南東で平坦な前橋台地へ移行する。遺跡はこの前橋台地上に位置し、午池川、染谷川、八幡川等の河川が南流している。遺跡の東側は前橋市の中心地であり、西側には桑畑が多く残っている。標高は116ｍを計る。

第２節　考古学的環境

本遺跡の位置する前橋市元総社町から群馬町にかけての地域は、上野国の国府がおかれ、奈良時代における群馬県の政治文化の中心地であった。又縄文時代から平安時代に至るまで多数の遺跡が存在する地域でもある。

特に近年関越自動車道建設に伴う大規模な発掘が行なわれ、多大な遺溝・遺物が検出されている。

以下各時代ごとに概観する。

縄文時代

国分寺中間地域遺跡で中期を中心とする住居址が検出されている。

弥生時代

清里庚申塚遺跡で環濠を伴う中期後半の住居址が検出されている。日高遺跡では水田址と方形周溝墓が検出されている。

古墳時代

総社古墳群が存在する。いずれも横穴式石室を持つものである。

王山古墳、遠見山古墳は６世紀前半までには築造されていたと思われ、横穴式石室の初期のものと考えられている。総社二子山古墳、愛宕山古墳は、６世紀末から７世紀初頭にかけての築造と考えられている。宝塔山古墳、蛇穴山古墳は、８世紀初頭の築造で、終末期の古墳として知られている。

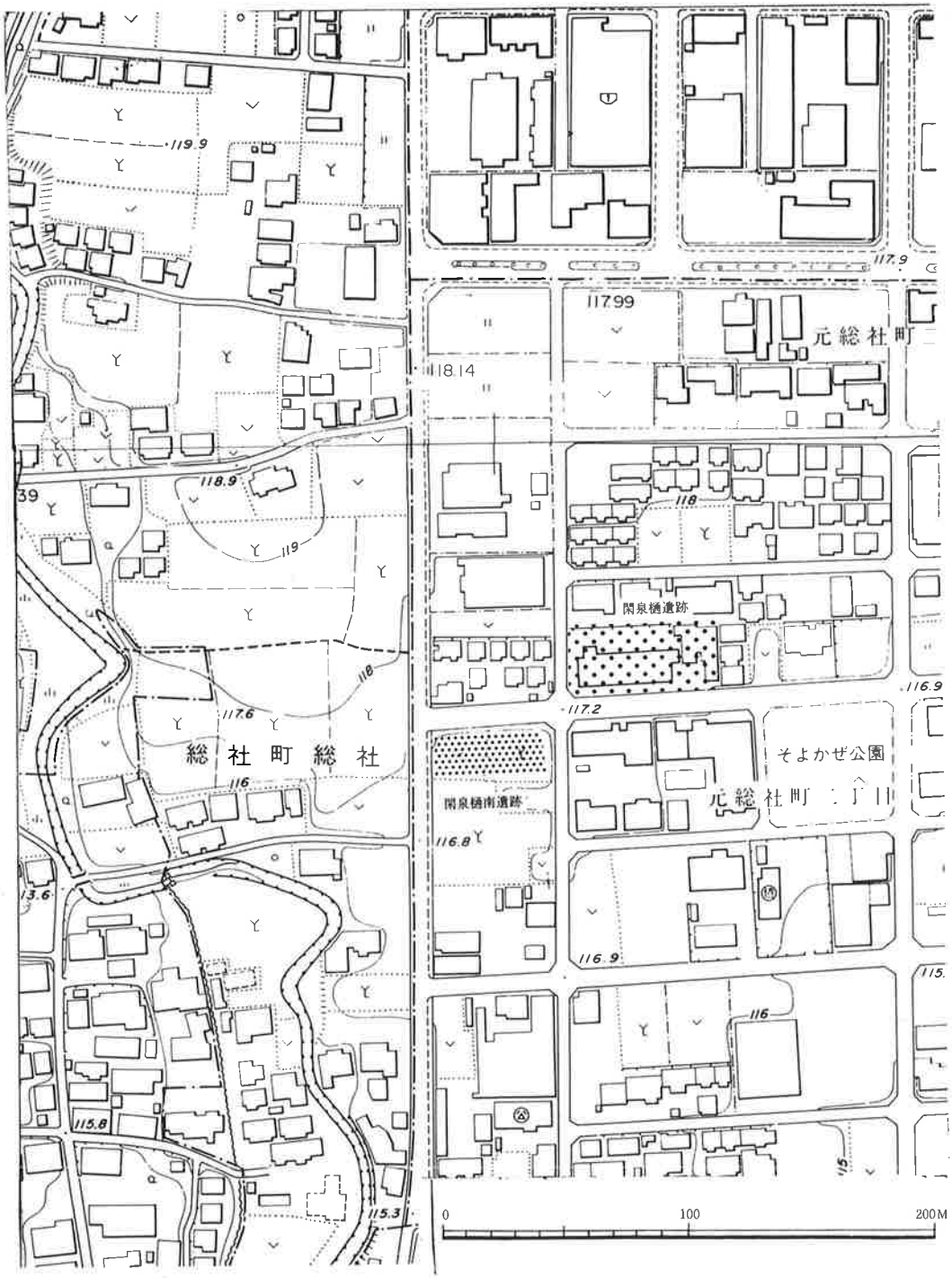
集落は大規模なものは少ないが、後期を中心に点存する。本遺跡の北側には閑泉樋遺跡があり、後期の住居址が検出され、本遺跡検出の住居址との関連が考えられる。

奈良・平安時代

上野国の国府が置かれ、国分僧寺、国分尼寺、山王廃寺が建てられる。山王廃寺は伽藍配置は不明であるが、出土した瓦などから白鳳期の建立と推定されている。

集落も鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡、中尾遺跡、清里・陣馬遺跡など大規模な集落が出現する。

本遺跡周辺では至る所で、奈良・平安時代の遺物が採取されており、当時この地域が上野国の中心地であったことを窺わせる。


119.9
117.9
117.99
元総社町
118.14
118.9
119
118
117.6
総社町総社
116
116.9
117.2
関泉橋遺跡
そよかぜ公園
元総社町
関泉橋南遺跡
116.8
116.9
116
115.8
115.3
0
100
200M

第２図　遺跡周辺図

第３章　調査の経過

確認調査は873㎡を対象とし、昭和60年５月22日に行なった。その結果住居址、土坑、溝等が検出された。

本調査は425㎡がその対象となり、昭和60年６月25日に開始した。梅雨時でもあり、雨にたたられたが、同年７月25日に終了した。

第１節　調査の方法（第３図）

確認調査のトレンチ法を用い、調査区に合わせて任意に設定し、堀り下げを行なった。

本調査区のグリットは磁北に合わせて、南北に１・２・３、東西にＡＢＣＤとし、各グリッドの北西側の交点を基点とした。

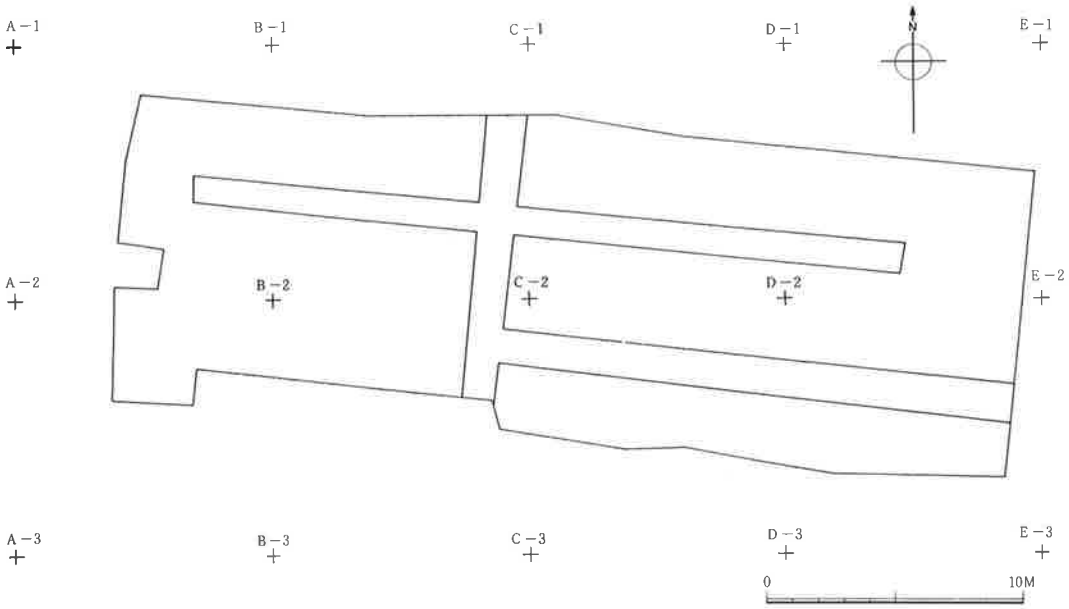
各遺構の調査は土層観察の為のベルトを残して掘り下げを行ない、遺構内の充塡土の観察を行なった。

１号溝は完掘せず、トレンチによる調査を行なった。

遺物は遺構外のものはグリット一括で取り上げ、遺構に伴うと思われるものは、その出土位置を記録した。

実測図は全体測量を200分の１で実測し、各遺構は20分の１で実測した。なお住居址のカマドは10分の１で実測した。

写真の撮影は大型白黒カメラ、小型白黒カメラ、スライド用小型カメラの３台で行ない、調査の各段階での記録を行なった。



第３図　グリッド配置・トレンチ設定図

第２節　日誌抄

６月25日　本調査区の範囲設定。表土掘削の開始。

６月26日　表土掘削終了。

６月27日　作業員が入り、確認作業を行なう。住居址４軒を確認する。

６月29日　溝、土坑を確認する。

７月１日　雨のため現場水没。ポンプによる排水作業を行なう。

７月３日　住居址検出部分の拡張作業を行なう。

７月４日　確認全景写真の撮影。

７月５日　１号構の掘り下げを行なう。溝は幅が５ｍあり、調査区の北側の半分弱を占める。
全掘が困難なため、トレンチによる調査とする。

７月９日　１号住居址の掘り下げ開始。

７月10日　２・３号住居址の堀り下げ開始。

７月12日　１・２号住居址の実測・写真撮影。３・４号住居址の掘り下げを行なう。

７月17日　１号溝の実測・写真撮影。

７月18日　土坑及び不明確認分の堀り下げ。

７月20日　１号溝のトレンチを２本増やし、掘り下げを行なう。

７月22日　３・４号住居址の実測・写真撮影を行なう。竪穴状遺構の掘り下げ。

７月23・24日　各遺構の実測・写真撮影を行ない、個々の遺構の調査を終了する。

７月25日　全測図の作成。清掃を行い終了写真の撮影を行なう。
発掘調査を終了する。

第３節　土層（第４図）

本遺跡の周辺は榛名山ニッ岳降下のFA・FP層、浅間山降下のＢ・Ｃ軽石層が検出されている場合も多い。しかし本遺跡ではＣ軽石が少量検出されたのみである。

遺構は古墳時代の住居址はⅡ層下から掘り込まれ、中世以降と考えられる溝はⅡ層上面から堀り込まれている。

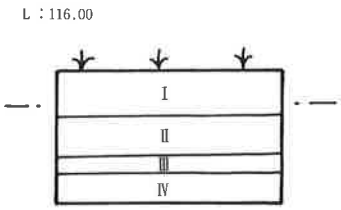
土層は南壁中央の堆積状況を模式化したものである。

Ⅰ層　暗褐色土　表土　25cm前後の堆積である。

Ⅱ層　暗褐色土　Ｃ軽石を少量含む、しまり粘性ともにあまりない。15cm前後の堆積である。

Ⅲ層　黒褐色土　Ｃ軽石をやや多く含む。しまり良く、粘性ない。西側はほとんど検出されず、東側は10cm前後の堆積である。

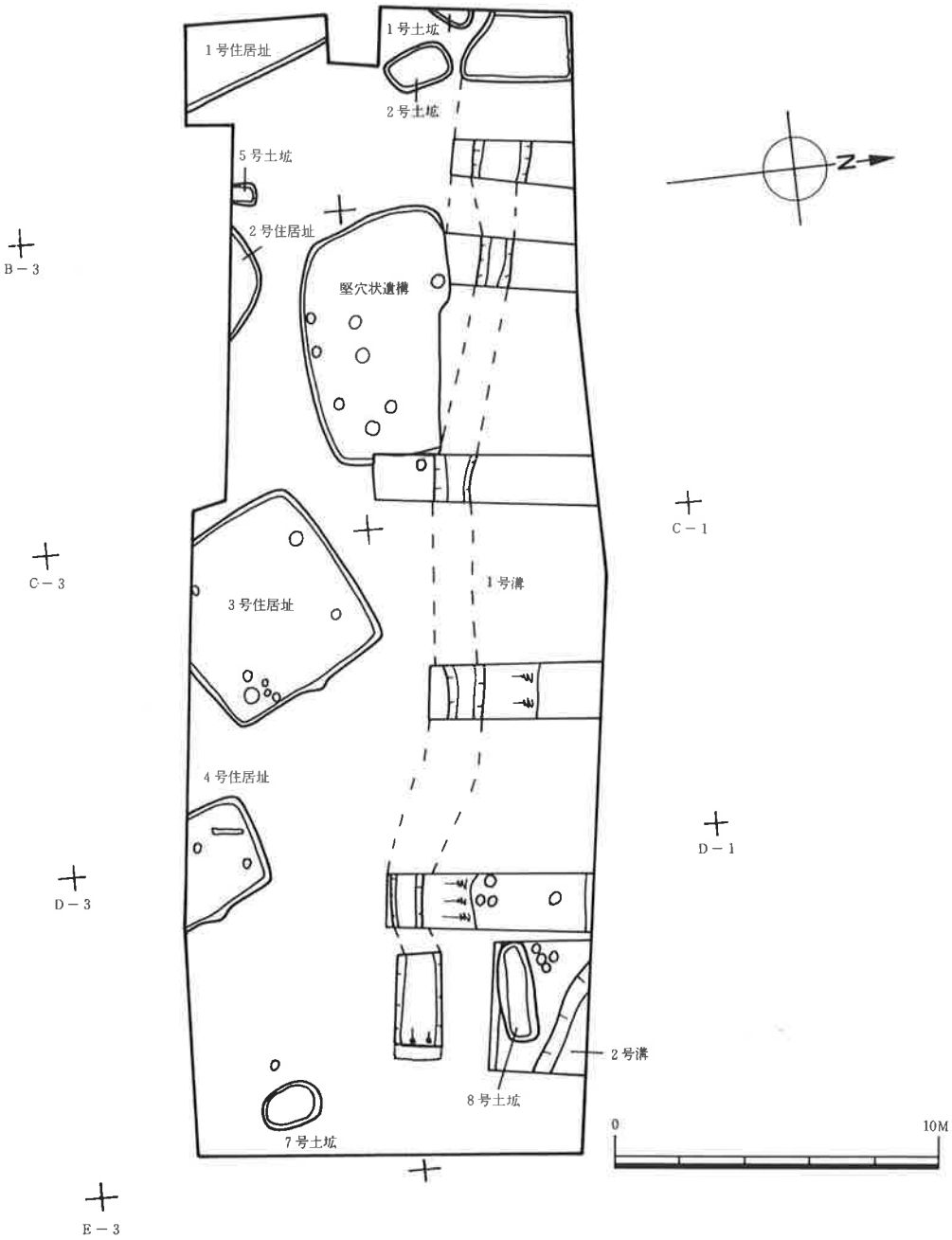
Ⅳ層　褐　色土　ローム漸移層。



第４図　標準堆積土層模式図

第４章　検出された遺構と遺物（第５図）

本遺跡で検出された遺構は古墳時代後期の竪穴住居址４軒と、歴史時代と思われる土坑５基、溝２条、及び竪穴状遺構１基である。



第５図　遺跡全測図

第１節　住居址

住居址は調査区南側で４軒が検出された。いずれも調査区外にまたがり、完掘できたものはない。

１号住居址　（第６～８図　　**図版**１－２～５・９・10　表１）

本址は調査区南西側Ｂ－２グリッドで検出された。南側と西側が調査区外にまたがり、北側は塔が立っているため、一部のみの調査である。

主軸方向はＮ60°Ｅと思われる。プランは方形を呈すると思われ、出土した遺物からカマドを有する住居址と考えられる。

確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは30cmである。

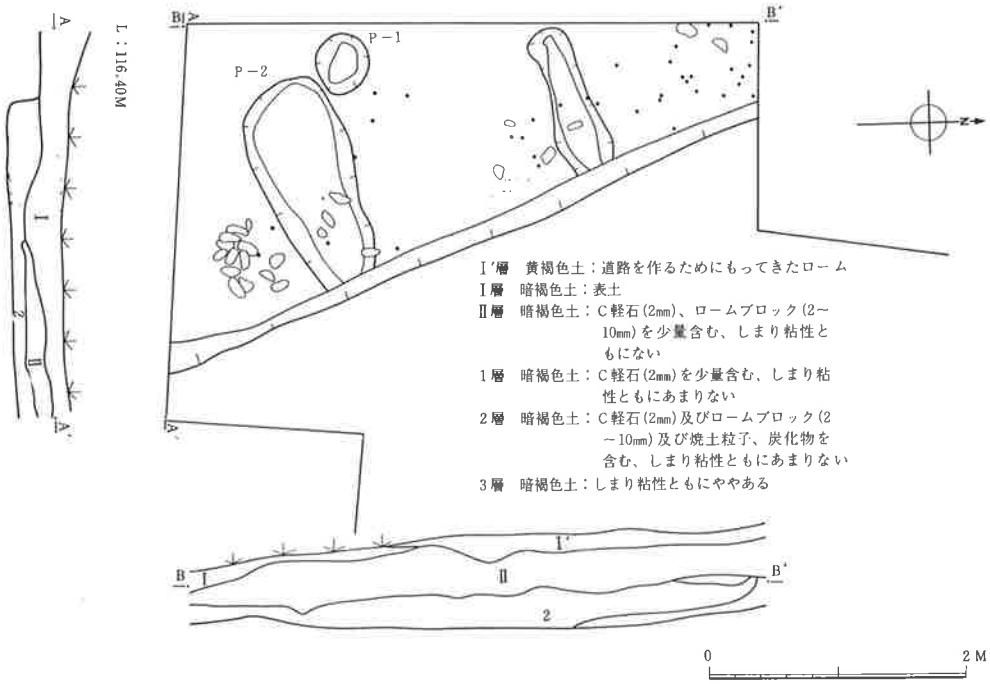
覆土は暗褐色土を基調とする自然堆積である。

壁は東壁の一部のみの検出であるがほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、踏み固めはほとんど見られない。

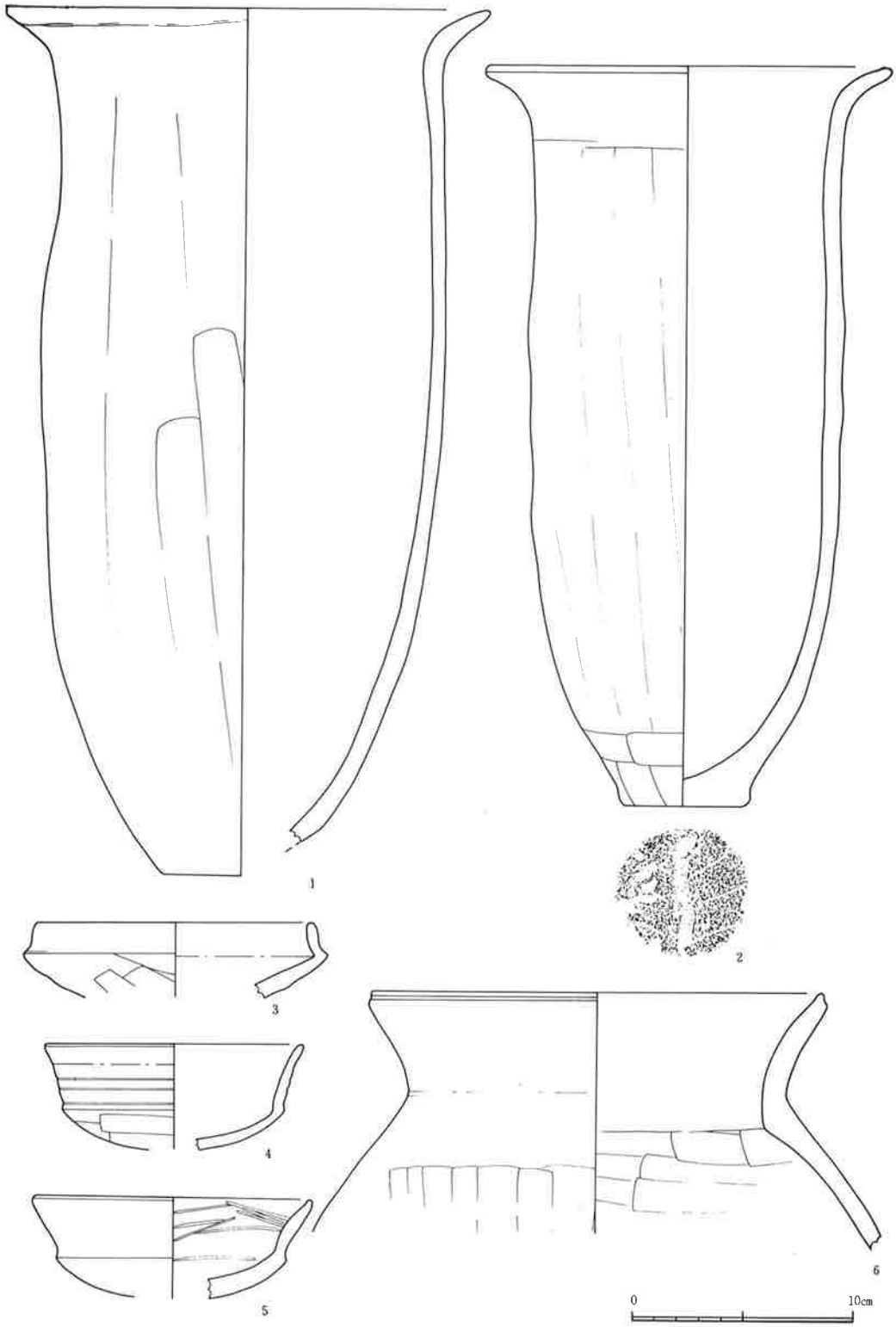
周溝は検出されなかった。

ピットは２基検出されたがいずれも浅い。又間仕切状の溝が検出されている。

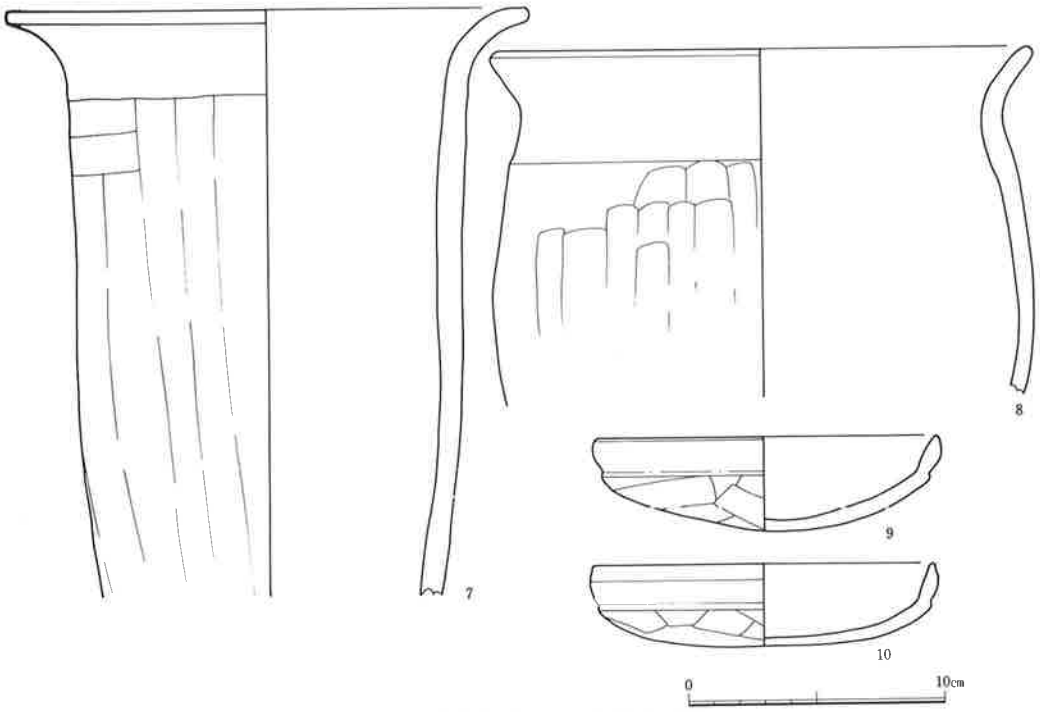
遺物は調査範囲に比べて比較的多く出土している。又、河原石が26点出土している。



第６図　１号住居址実測図



第７図　１号住居址出土実測図 (1)



第８図　１号住居址出土実測図（2）

表１　１号住居址出土遺物観察表

番号	器形 遺存度	口径 器高 底径(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	甕 底部一部欠	22.1 39.7 —	長胴甕。口縁部内外面ヨコナデ。外面胴部荒いヘラケズリ。	小石、砂粒を多く含む。	やや不良	にぶい褐色	15
2	甕 1/2存	— 33.8 5.3	長胴甕。口縁部内外面ヨコナデ。外面胴部ヘラケズリ。底部付近ヘラケズリ。	小石、砂粒を多く含む。	やや不良	にぶい褐色	15 底部木葉痕。
3	坏 1/5存	12.5 3.4 —	口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。	緻密	良好	赤褐色 (黒斑あり)	覆土
4	坏 1/4存	11.6 4.8 —	口縁部ヨコナデ。外面ヘラケズリ。	緻密	良好	褐色	覆土
5	坏 1/4存	12.4 4.6 —	口縁部内外面ヨコナデ。内面ミガキ。内側黒色処理。	緻密	良好	外面橙褐色 内面黒色	覆土
6	甕 口縁部のみ1/2存	20.4 — —	口縁部内外面ヨコナデ。外面縦方向のヘラケズリ、内面横方向のヘラケズリ。	小石、長石を含む。	良好	橙褐色	1
7	甕 底部欠損	20.4 23.0 —	長胴甕。口縁部内外縁ヨコナデ。外面胴部縦方向のヘラケズリ。	小石、砂粒を含む。	やや不良	にぶい褐色	15、19、2の甕と同一個体の可能性あり。
8	甕 口縁部のみ1/3存	20.8 — —	口縁部内外面ヨコナデ。外面縦方向のヘラケズリ。	砂粒を含む。	良好	褐色	3
9	坏 1/2存	13.3 3.7 —	口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。	緻密	良好	黒褐色	2
10	坏 1/2存	13.1 3.2 —	口縁部内外面ヨコナデ。外面底部ヘラケズリ。	緻密	良好	褐色	4

2号住居址（第9・10図　　**図版**2－2・10）

本址は調査区南西側C－2グリッドで検出された。北東側一部のみの調査である。

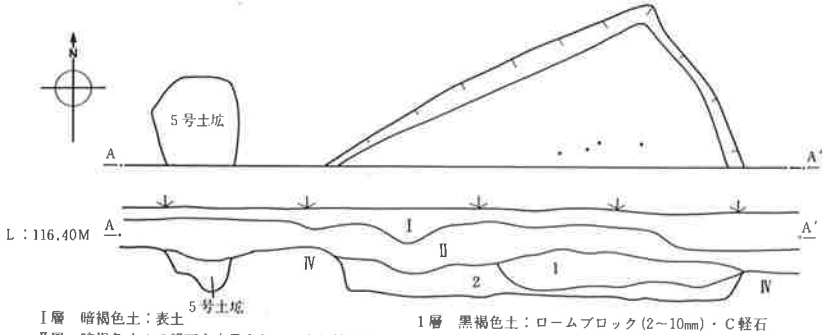
主軸方向はN52°Eと思われ、方形を呈すると考えられる。

確認面は第Ⅱ層下、第4層上面で、掘り込みは30cmである。

覆土は自然堆積である。

周溝、ピット、カマド等の付帯設備は調査した範囲では検出されなかった。

遺物は覆土中から少量出土している。



Ⅰ層　暗褐色土：表土
Ⅱ層　暗褐色土：C軽石を少量含む、しまり粘性あまりない
Ⅲ層　褐色土：ローム漸移層
1層　黒褐色土：ロームブロック(2～10mm)・C軽石(2mm)を少量含む、しまりよく粘性あまりない
2層　暗褐色土：ローム粒子及びブロック(2～5mm)を含む、しまりややあり粘性あまりない

0　2M

第9図　2号住居址実測図

遺物）

第10図1は甕の1/4片である。

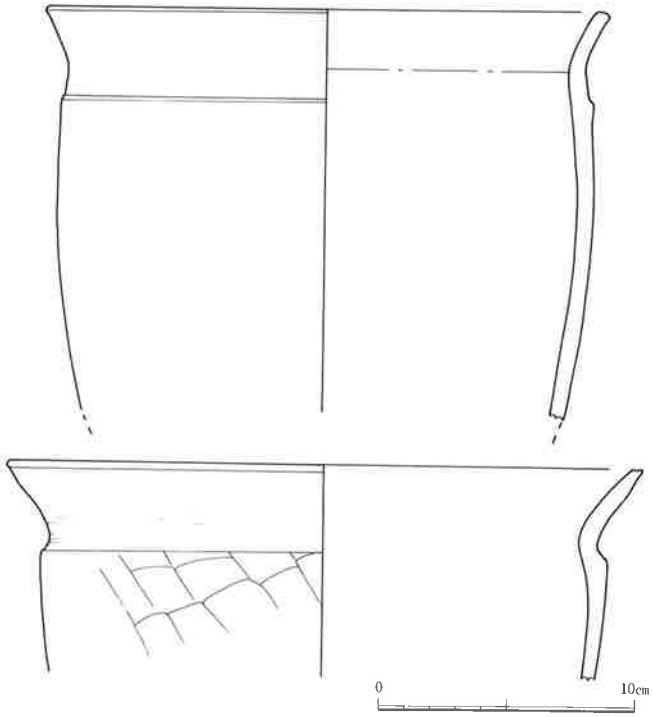
口径は21.6cmである。

摩耗が激しい。胎土は細かく、焼成は良好である。色調は赤褐色を呈する。

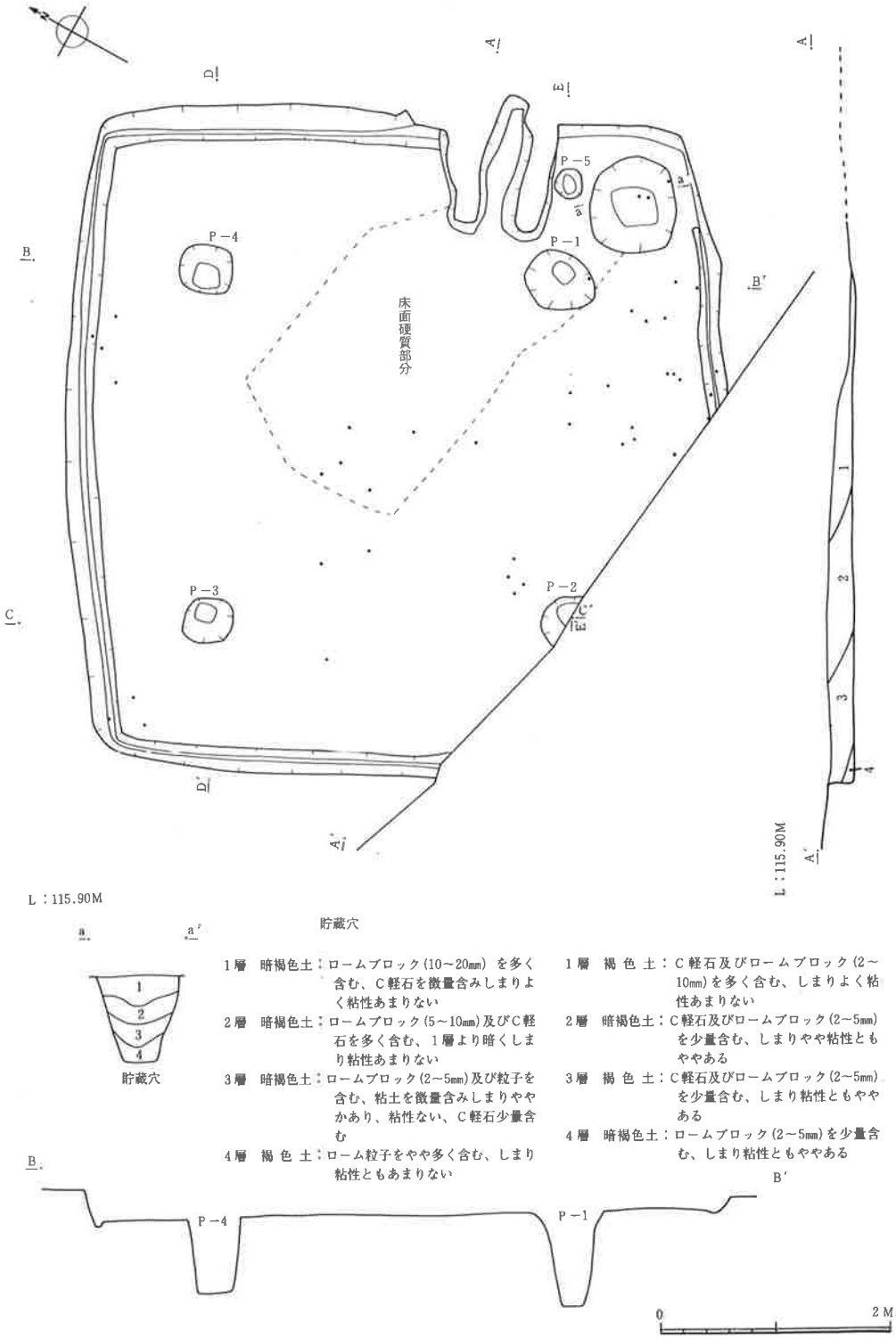
第10図2は甕の口縁部片である。口径は24.6cmである。

口縁部はやや外反し、内外面に横ナデを施す。外面頸部下はヘラ削りが見られる。胎土は細かく、焼成は良好である。色調は褐色を呈する。

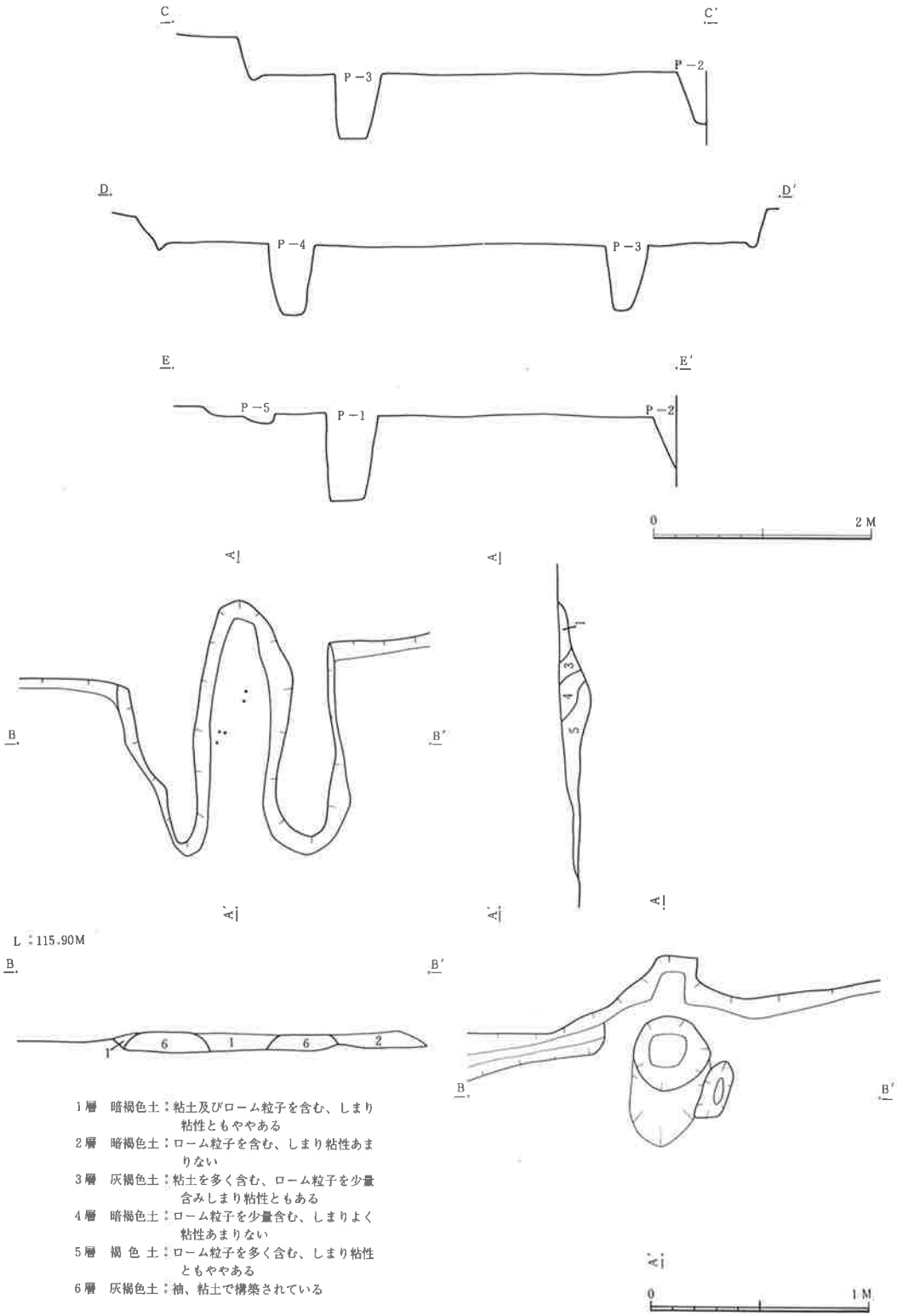
2は甕としたが甑の可能性もある。



第10図　2号住居址出土遺物



第11図　3号住居址実測図 (1)



1層　暗褐色土：粘土及びローム粒子を含む、しまり粘性ともややある
2層　暗褐色土：ローム粒子を含む、しまり粘性あまりない
3層　灰褐色土：粘土を多く含む、ローム粒子を少量含みしまり粘性ともある
4層　暗褐色土：ローム粒子を少量含む、しまりよく粘性あまりない
5層　褐 色 土：ローム粒子を多く含む、しまり粘性ともややある
6層　灰褐色土：袖、粘土で構築されている

第12図　3号住居址実測図 (2)

3号住居址　（第11～13図　　**図版**3・10・11　表2）

調査区南側C－2・D－2グリッドで検出。南西側の一部が調査区外となっている。

主軸方向はN62°Eである。規模は長軸590cm、短軸585cmで方形を呈する。

確認面は第Ⅲ層上面で、深さは20cmである。壁はなだらかに立ち上がり、床面は踏み固めが認められ、カマド周辺が顕著である。

覆土は4層に分けられ、自然堆積を示す。

周溝は北東側の貯蔵穴付近を除いて、全周する。

貯蔵穴はカマドの東側で検出された方形の掘り込みである。

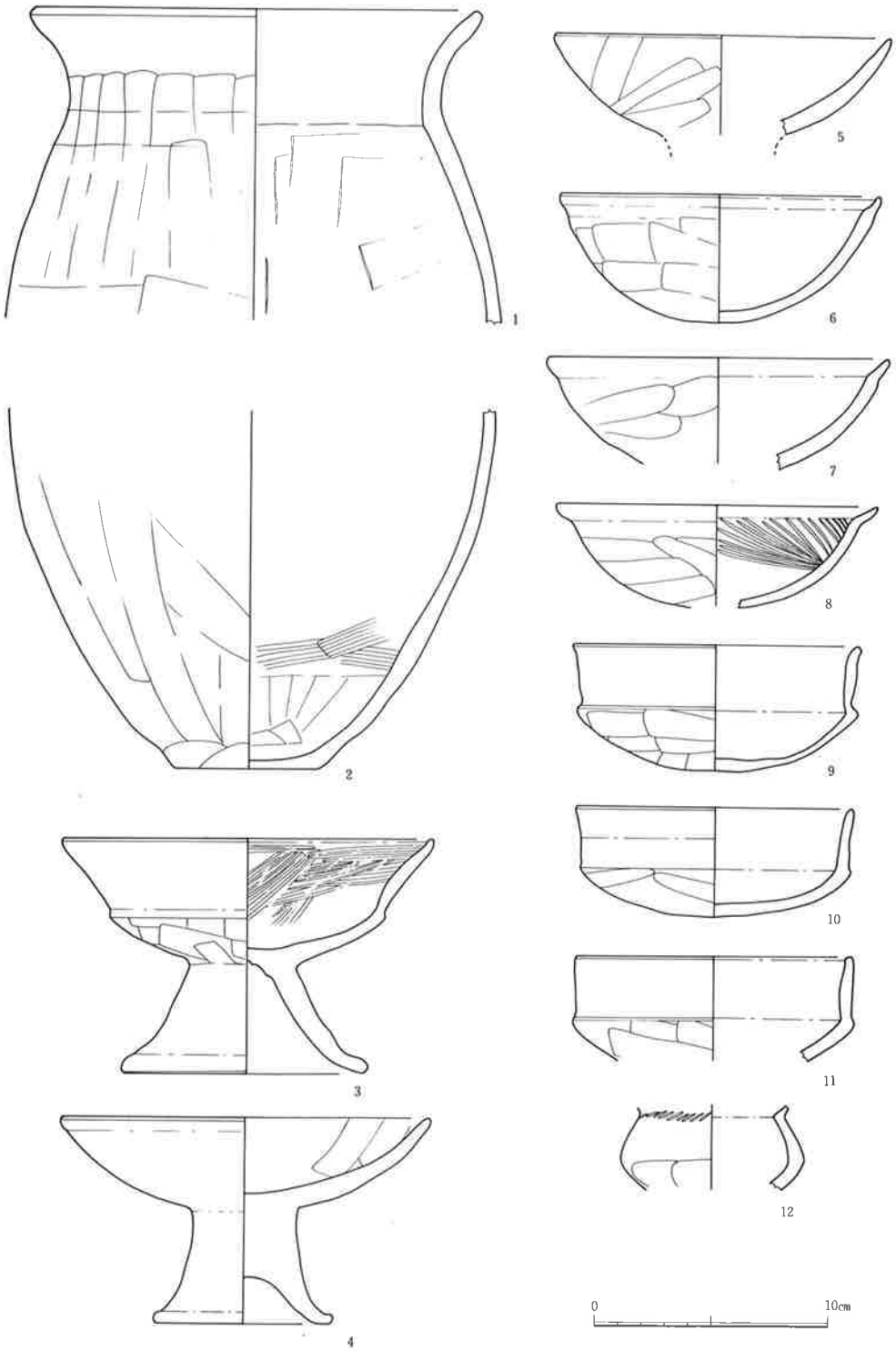
ピットは5基検出された。P－1～P－4が主柱穴と思われる。P－5はカマドの右袖付近で検出された。

カマド　北壁中央で検出された。上部はトレンチによって削平されている。袖は粘土で構築され、1m程度住居址内に張り出している。支脚は検出されなかった。煙道部の壁外への掘り込みはわずかである。

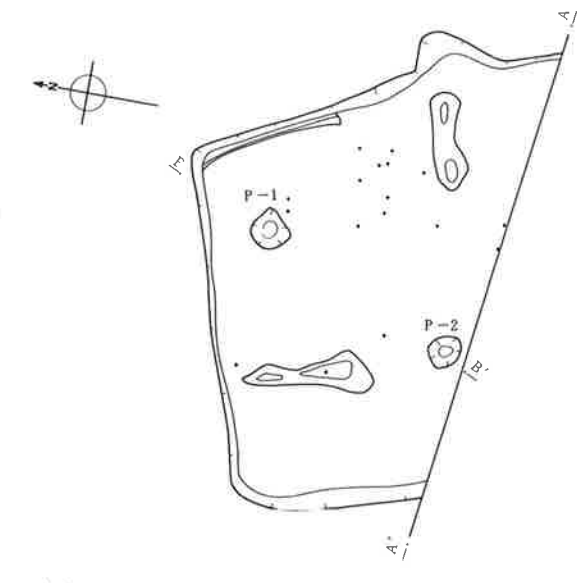
遺物は貯蔵穴付近にやや多く集まる。

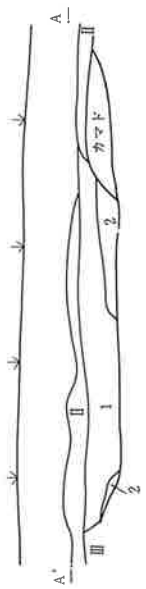
表2　3号住居址出土遺物観察表

番号	器形 遺存度	口径 器高 低径(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	甕 上半部1/3存	19.1 13.5 —	口縁部ヨコナデ・胴部外面縦方向のヘラケズリ内面ヘラケズリ	小石、砂粒を含む。	良好	灰褐色	床着16
2	甕 胴下半部存	— — 6.0	内外面ヘラケズリ。	砂粒を含む。	良好	暗褐色	床着19
3	高坏 脚部と坏部1/2存	15.9 10.1 10.3	坏部稜を持つ。外面坏部口縁部ヨコナデ、下部ヘラケズリ内面ミガキ。脚部内外面ヨコナデ。	小石を少量含む。	良好	赤褐色 (黒斑あり)	9、10、14
4	高坏 脚部と坏部1/2存	15.5 8.7 7.3	坏部内面ヘラケズリ。	小石、砂粒を含む。	良好	暗褐色	17
5	高坏 坏部のみ存	14.3 — —	外面ヘラケズリ。	小石を含む。	良好	褐色	9
6	坏 口縁部一部欠	13.6 5.5 —	口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。	小石、砂粒を含む。	良好	にぶい褐色	床着10
7	坏 1/3存	14.6 — —	口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。	砂粒を含む。	良好	にぶい褐色	14、18、22
8	坏 1/2存	13.6 — —	口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ、内面ミガキ。	砂粒を含む。	良好	にぶい褐色	15
9	坏 完存	12.2 5.4 —	口縁垂直ぎみに立つ。口縁部内外面ヨコナデ。外面底部ヘラケズリ。	緻密	良好	赤褐色	貯1
10	坏 2//3存	11.7 4.7 —	口縁部垂直ぎみに立つ。口縁部ヨコナデ。外面底部ヘラケズリ。	緻密	良好	橙褐色	17
11	坏 1/4存	11.8 4.5 —	口縁垂直ぎみに立つ。口縁部内外面ヨコナデ。外面底部ヘラケズリ。	緻密	良好	赤褐色	17、18
12	坩 1/4存	— — —	胴部「く」の字状に外反する。外面胴下半ヘラケズリ。	緻密	良好	褐色	1



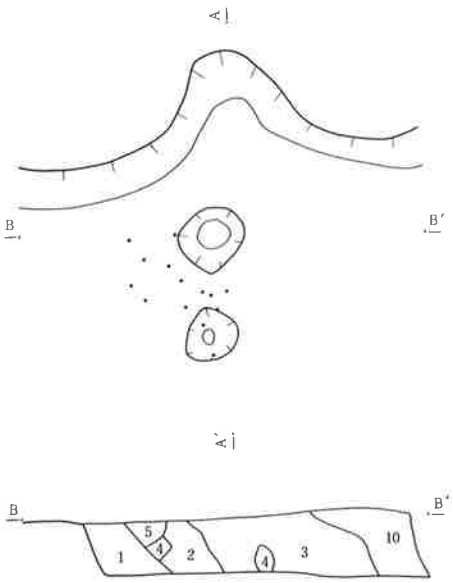
第13図　3号住居址出土遺物

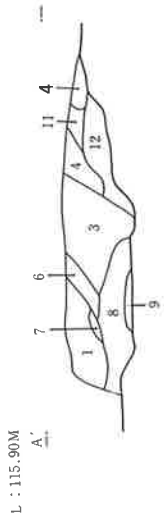




Ⅰ層　暗褐色土：表土
Ⅱ層　暗褐色土：C軽石(2mm)を少量含む、C軽石(2～10mm)を少量含み、しまりよく粘性あまりない
Ⅲ層　黒褐色土：C軽石をやや多く、しまりよく粘性ない
1層　暗褐色土：C軽石(2mm)、ロームブロック(2～10mm)を多量に含む、しまりよく粘性ややある
2層　暗褐色土：ローム粒子を少量含む、C軽石(2mm)、ロームブロック(2mm)を微量含み、しまり粘性ともややある

0　2M





1層　黒褐色土：焼土粒子及びロームブロック(2～10mm)を少量含む、しまり粘性ともややある
2層　暗褐色土：焼土粒子を少量含む、しまりよく粘性ややある
3層　黒褐色土：焼土粒子及びローム粒子を少量含む、しまりよく粘性ややある
4層　暗赤褐色土：焼土粒子を多く含む、しまり粘性ともややある
5層　暗褐色土：1層に似る
6層　暗褐色土：C軽石及び焼土粒子を含む、しまりよく粘性ややある
7層　暗赤褐色土：4層よりやや暗い
8層　暗褐色土：2層に似る、C軽石を少量含む
9層　黒色土：灰層
10層　黒褐色土：ロームブロック(2～10mm)を少量含む、しまりあまりなく、粘性ややある
11層　黒褐色土：焼土粒子を含む、しまりあまりなく、粘性ややある
12層　暗褐色土：ローム粒子を少量含む、焼土粒子を微量含み、しまり粘性ともややある

0　1M

第14図　4号住居址実測図

4号住居址　（第14・15図　　**図版**4・11　表3）

調査区南側D－2、E－2グリットで検出された。南側は一部調査区外となっている。

主軸方向はN70°Eである。規模は東西方向が320cmで、南北方向は不明である。

確認面は第Ⅲ層上面で、掘り込みは20cmである。

壁はなだらかに立ち上がり、床面はほぼ平坦で、踏み固めはあまり認められない。

覆土は暗褐色土を基調とし、2層に分けられ、自然堆積を示す。

周溝はカマドの左側で一部検出された。北側には間仕切状の溝が検出された。

ピットは2基検出されているが、いずれも浅い。

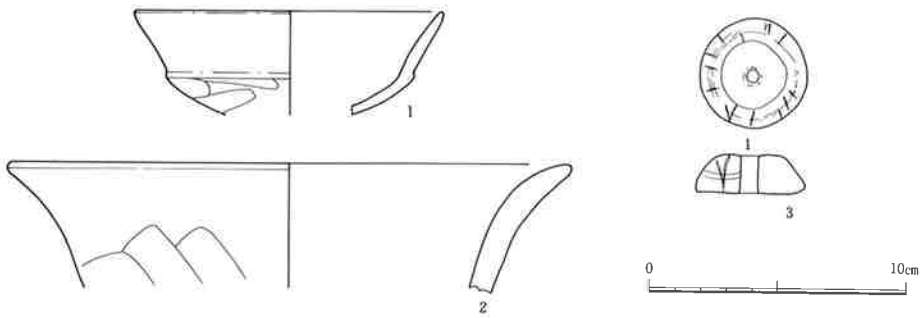
カマド　北東壁中央で検出された。袖、支脚等は検出されなかった。煙道の壁外への掘り込みは30cmで、緩やかに立ち上がる。

充填土の中の9は灰層である。火床部は検出されなかったが、中央部に浅い掘り込みが見られる。

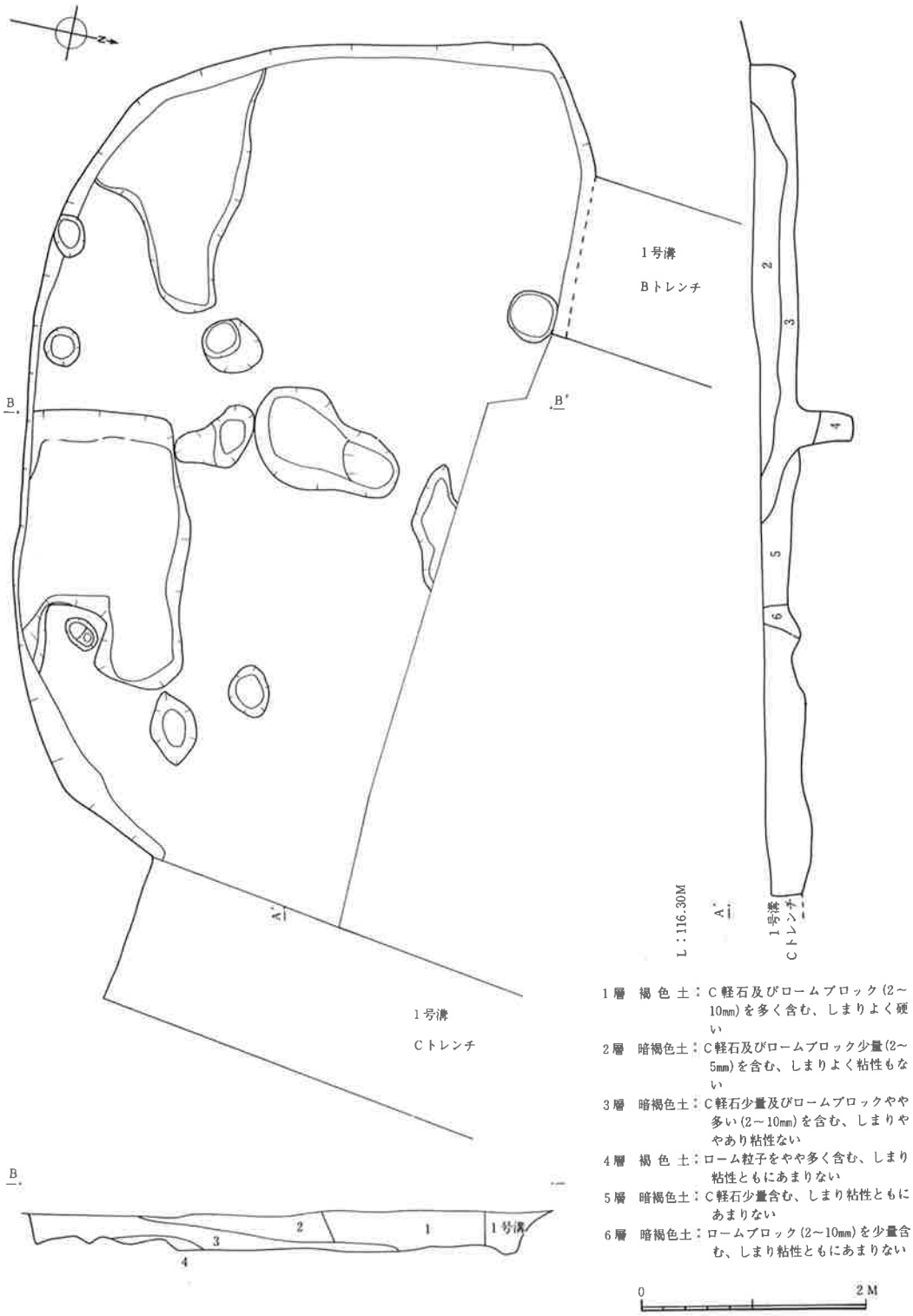
遺物は少量であるがカマドを中心にややまとまって出土した。また覆土中からではあるが、滑石製の紡垂車が出土している。

表3　4号住居址出土遺物観察表

番号	器形 遺存度	口径 器高 底径(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	坏 1/4存	11.8 — —	口縁部ヨコナデ。外面底部ヘラケズリ。	緻密	良好	褐色	カマド12
2	甕 口縁部1/5存	21.6 — —	口縁部ヨコナデ。外面胴部ヘラケズリ。	石英、長石を含む。	良好	灰褐色	カマド13
3	紡垂車 完形	器高 1.5 底径 4.4 重量41.8g	表面、擦痕あり。穿孔は両方向から。	—	—	黒色	滑石製、覆土10



第15図4号住居址出土遺物



第16図　竪穴状遺構実測図

第２節　竪穴状遺構　（第16図　　図版５－１）

本構は調査区西側Ｃ－１・Ｃ－２グリッドで検出された。北側で１号溝と重複し、本構の方が古い。

確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは約40cmである。

主軸方向はＮ80°Ｅである。プランは隅丸方形を呈すると思われる。

覆土はＣ軽石、ロームブロックなどを含む。

壁はやや外反して立ち上がり、床面は凹凸がみられ、踏み固めは認められない。

ピットや一段底くなった部分が認められるが、規則性がない。

遺物は少量の出土である。ほとんどが細片で、摩耗している。

第３節　土坑

土壙は５基が検出されている。形状はさまざまである。３・４・６号土坑は欠番である。

１号土坑　（第17図　　図版５－２）

本坑は調査区北西側Ｂ－１グリッドで検出された。西側が調査区外となっており、主軸方向、規模等は不明である。確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは最深部で30cmを計る。底部はやや凹凸が認められる。遺物は覆土中から土師器の細片が出土している。

２号土坑　（第17・第18図　　図版５－３・12）

本坑は調査区北西側Ｂ－１グリッドで検出された。主軸方向はＮ18°Ｗである。規模は170cm×110cmで方形を呈する。確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは25cmである。遺物は須恵器の高坏の脚部が出土している。底形は10.2cmで、３方向に透しが入る。胎土は緻密で、色調は灰褐色である。焼成は良好である。

５号土坑　（第17図　　図版５－４）

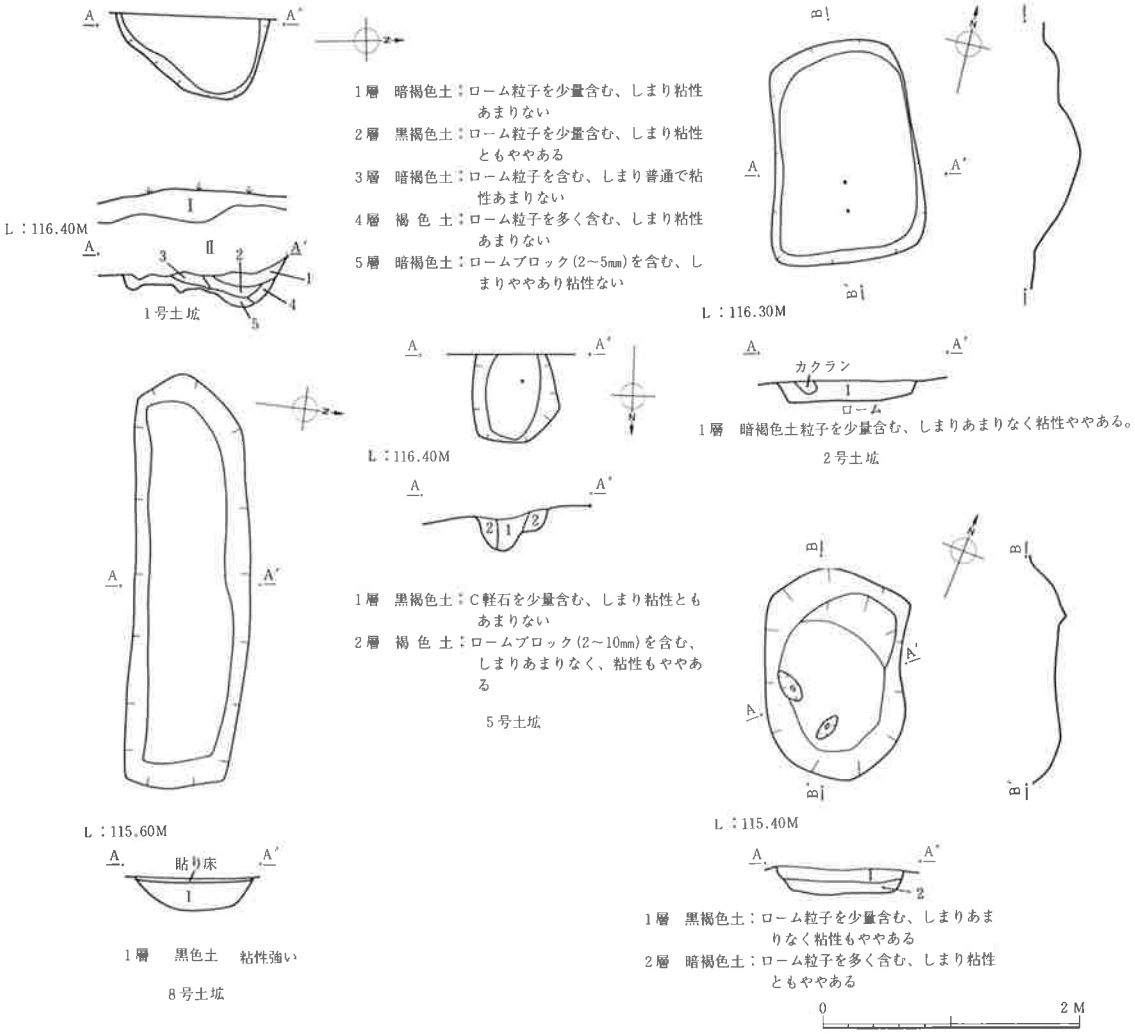
本坑は調査区南西側Ｂ－２グリッドで検出。南側の一部が調査区外となる。主軸方向はＮ９°Ｅである。規模は不明であるが楕円形を呈すると思われる。確認面は第Ⅲ層で、深さは25cmである。遺物は覆土中から土師器の細片が出土している。

７号土坑　（第17図・18図　　図版12）

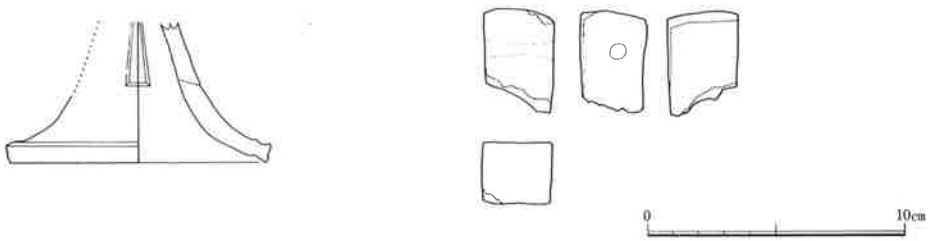
本坑は調査区南東側Ｄ－２グリッドで検出。主軸方向はＮ24°Ｗである。規模は160cm×110cmで楕円形を呈する。確認面は第Ⅲ層で、掘り込みは25cmである。断面形はⅢ状となる。遺物は砥石の破片が出土している。石質は粘板岩で孔がたたれる。使用面は全面に認められる。

8号土坑　（第17図　　**図版**５－５）

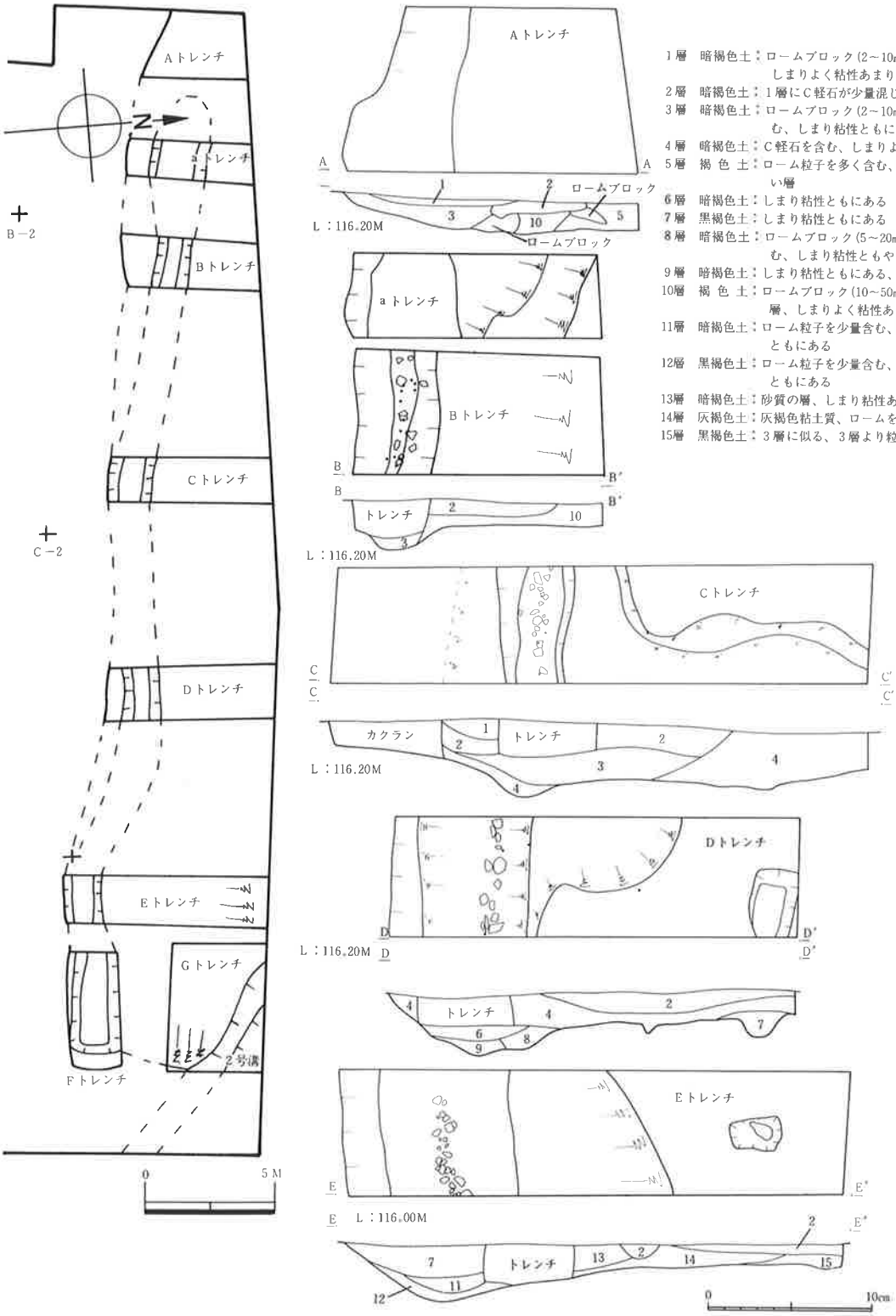
本坑は調査区北東側Ｄ－１グリッドで検出された。主軸方向はＮ85°Ｅである。規模は330㎝×90㎝の長方形を呈する。１号溝内の検出で、上部は貼り床となっており、本坑の方が古い。断面形は鍋底状となる。遺物の出土はない。



第17図　土坑実測図

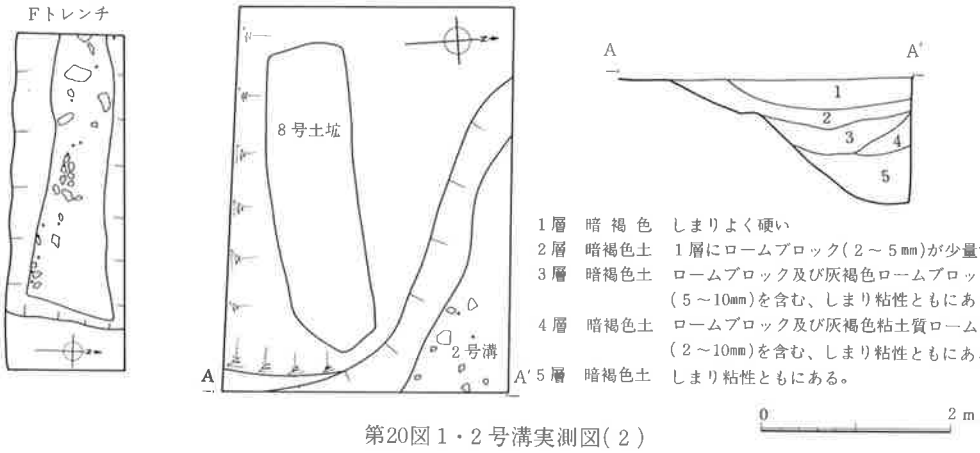


第18図　２・７号土坑出土遺物

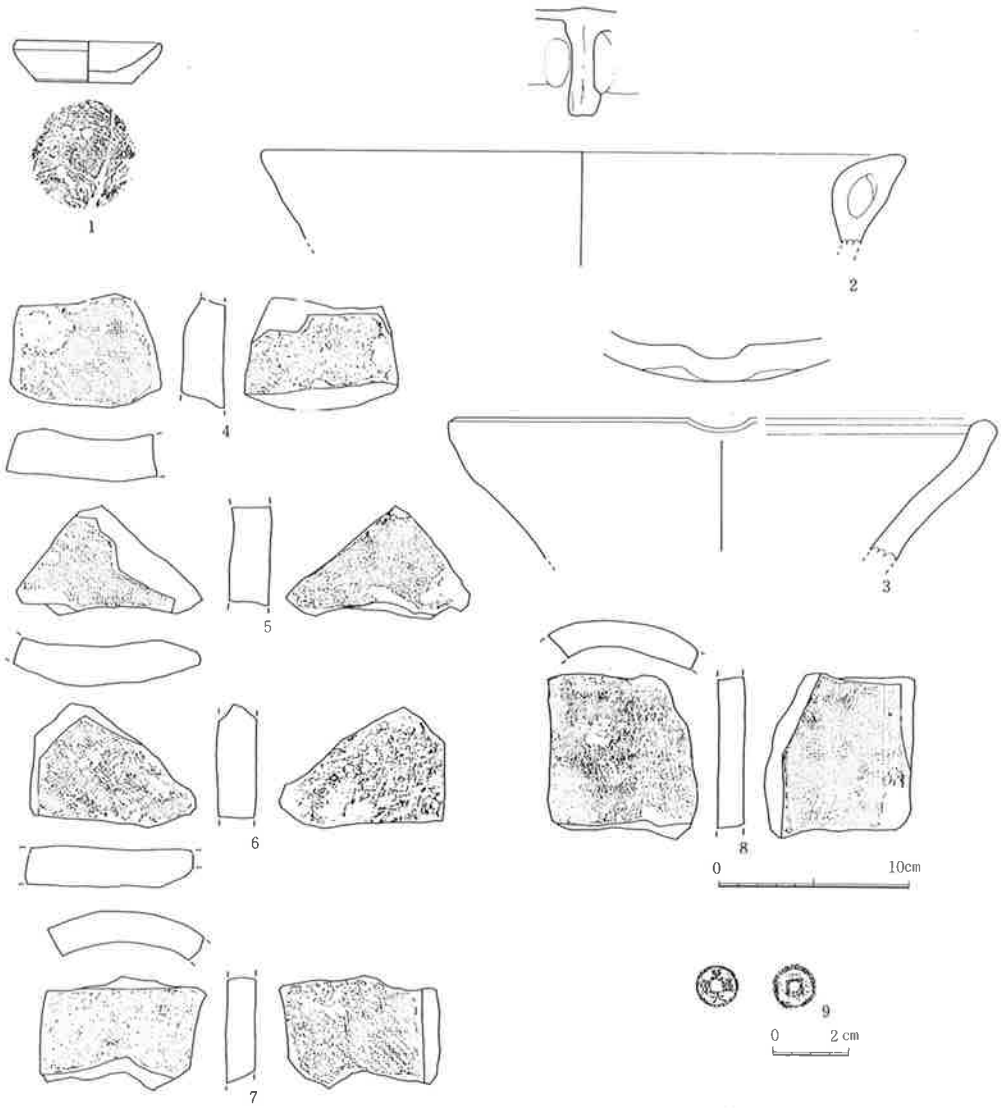


1層　暗褐色土：ロームブロック(2～10㎜)を含む、しまりよく粘性あまりない
2層　暗褐色土：1層にC軽石が少量混じる
3層　暗褐色土：ロームブロック(2～10㎜)を少量含む、しまり粘性ともにある
4層　暗褐色土：C軽石を含む、しまりよく硬い
5層　褐色土：ローム粒子を多く含む、しまりのない層
6層　暗褐色土：しまり粘性ともにある
7層　黒褐色土：しまり粘性ともにある
8層　暗褐色土：ロームブロック(5～20㎜)を多く含む、しまり粘性ともややある
9層　暗褐色土：しまり粘性ともにある、粒子細かい
10層　褐色土：ロームブロック(10～50㎜)まじりの層、しまりよく粘性あまりない
11層　暗褐色土：ローム粒子を少量含む、しまり粘性ともにある
12層　黒褐色土：ローム粒子を少量含む、しまり粘性ともにある
13層　暗褐色土：砂質の層、しまり粘性あまりない
14層　灰褐色土：灰褐色粘土質、ロームを多量に含む
15層　黒褐色土：3層に似る、3層より粒子細かい

第19図　1・2号溝実測図 (1)



第20図 1・2号溝実測図(2)



第21図　1号溝出土遺物

表４　１号溝出土遺物観察表

番号	器　形 遺存度	口径 器高 底径(cm)	器形、成・整形の特徴
1	皿 完存	7.6 2.2 5.1	底部静止糸切り。
2	内耳鍋 破片	33.2 — —	内耳部分卵形。
3	片口鉢 口縁部片	27.9 — —	片口部分指による成形。
4	瓦	厚さ 2.1	女瓦（平瓦）布目。
5	瓦	厚さ 2.1	女瓦（平瓦）布目。
6	瓦	厚さ 2.0	女瓦（平瓦）布目。
7	瓦	厚さ 1.5	男瓦（丸瓦）布目。
8	瓦	厚さ 1.3	男瓦（丸瓦）布目。
9	古銭	直径 2.2	(至)大通宝　元銭（1310年鋳造）か。

第４節　溝

１号溝　（第19～21図　　**図版**６・７・８－１・12　表４）

本溝は調査区北側で検出された。走方向はN82°Wで、ほぼ東西方向に走る。

確認面は第Ⅰ層下である。２段の掘り込みとなっており、上段は北側の立ち上がりは不明であるが、逆台形を呈すると思われる。下段はU字状となっている。東側のAトレンチには下段の掘り込みはなく、西側のF・Gトレンチで立ち上がる。

覆土は自然堆積を示し、しまりが良く硬い。

下段には水流の跡が認められ、石が流れ込んでいる。

遺物は覆土中からやや多く出土しているが細片が多い。

調査区での長さは32.5ｍである。幅はEトレンチで６ｍを計る。確認面からの深さは上段で40cmから60cm下段で60cmから100cmである。

２号溝　（第19・20図　　**図版**８－２）

本溝は調査区北東側で検出された。一部のみの検出のため詳細は不明である。走方向は北西から南東と思われる。

確認面は第Ⅰ層下である。深さは調査した部分で130cmで、急角度で深くなる。

覆土は自然堆積を示し、軽石の混入はほとんどない。

遺物は覆土中から少量土器片が出土しているが、流れ込みと思われる。

第５節　遺構外出土遺物　（第22図）

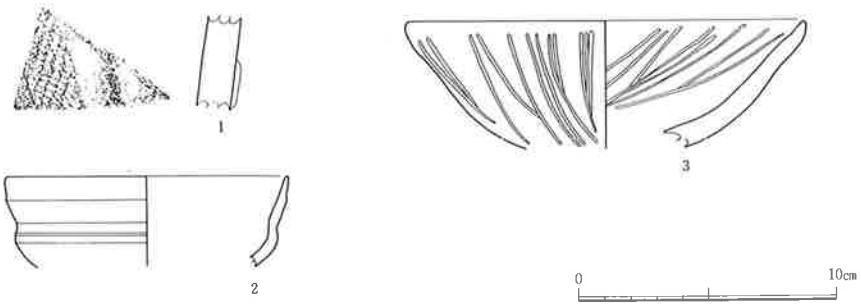
遺構外から出土した遺物は大形整理箱に１箱弱と量は少ない。時代的には古墳時代後期鬼高式のものと、中・近世の陶器片がほとんどで、いずれも細片である。

縄文土器は図化した１片のみの出土である。

第22図１は縄文土器片である。中期後半加曽利Ｅ式で、隆帯が見られる。縄文は単節ＲＬである。

第22図２は土師器の坏である。口縁部片である。口径は114cmで、底部は丸底になる。口縁部外面には横ナデが施される。胎土は緻密で、焼成良好である。色調は褐色である。古墳時代後期鬼高期の遺物である。

第22図３は土師器の高坏である。坏部の1/3片である。内外面共に磨きが入る。胎土は赤色粒を含み、やや荒い。焼成は良好で、色調は赤褐色である。古墳時代後期鬼高期の遺物と思われる。



第22図　遺構外出土遺物

第5章　まとめ

本遺跡で検出された遺構・遺物は縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代・中近世に及ぶものである。ここでは各時代別にまとめる。

縄文時代

加曽利ＥⅢ式の土器片１片のみの検出である。遺構は検出されなかった。

古墳時代

住居址４軒が検出された。１号住居址は鬼高Ⅲ式で、７世紀後半と考えられる。２号住居址は出土した遺物から鬼高式の末葉と思われるが、調査が一部のため細かい時期決定はできない。３号住居址は鬼高Ⅰ式で６世紀初頭と考えられる。４号住居址は鬼高Ⅱ式で６世紀末から７世紀初頭と考えられる。

閑泉樋遺跡の調査結果（鬼高Ⅰ式２軒、鬼高Ⅱ式１軒）と考え合わせると、この地域で検出された住居址は鬼高期のほぼ全般に及ぶ。

２号土坑と１号溝・竪穴状遺構からは鬼高期の土器片が検出されている。２号土坑から須恵器の高坏の脚部が検出されており、６世紀末葉から７世紀初頭にかけての遺物と思われる。１号溝・竪穴状遺構の出土遺物は住居址からの流れ込みと考えられる。摩耗した坏・甕の破片が出土している。

土坑・竪穴状遺構は、２号土坑以外時代不明であるが、いずれも古墳時代以降の所産と考えられる。

奈良・平安時代

１号溝から国分寺瓦が出土している。流れ込みと思われ、いずれも破片である。

中・近世

内耳鍋の破片・片口注口の鉢線、擂り鉢片、古銭などが１号溝から出土している。１号溝の構築年代は不明であるが、Ｂ軽石が認められないことからも古代末以降の所産と考えられる。２号溝は一部のみの調査のため不明な点が多い。

これら２条の溝と閑泉樋遺跡検出の２状の溝との関係は不明である。

本遺跡は上毛野国府推定域と一部重複する地域にある。しかし国府に関連すると思われる遺構の検出はない。

参 考 文 献

上総国分寺周辺地域発掘調査報告	群馬県教育委員会	昭和46年
清里陣馬遺跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団	昭和56年
清里庚申塚遺跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団	昭和56年
北原遺跡	群馬町教育委員会	昭和57年
元総社明神遺跡Ⅰ	前橋市教育委員会	昭和57年
文化財調査報告書　第13集	前橋市教育委員会	昭和57年
井出村東遺跡	群馬町井出村東遺跡調査会	昭和58年
日本の古代遺跡　17　群馬西部	保育社	昭和59年
総社桜ヶ丘遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	昭和60年
箱田境遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	昭和60年
群馬町の遺跡	群馬町教育委員会	昭和61年

写 真 図 版

1.　確認全景　西→東

2.　1号住居地遺物出土状況

3.　同

4.　同

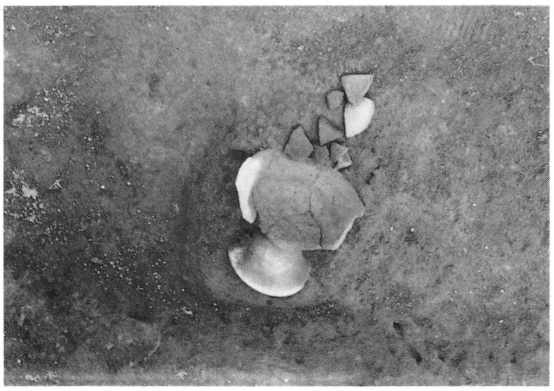
5.　同

図版 2

1.　1号住居址完掘状況

2.　2号住居址遺物出土状況

1.　3号住居址遺物出土状況



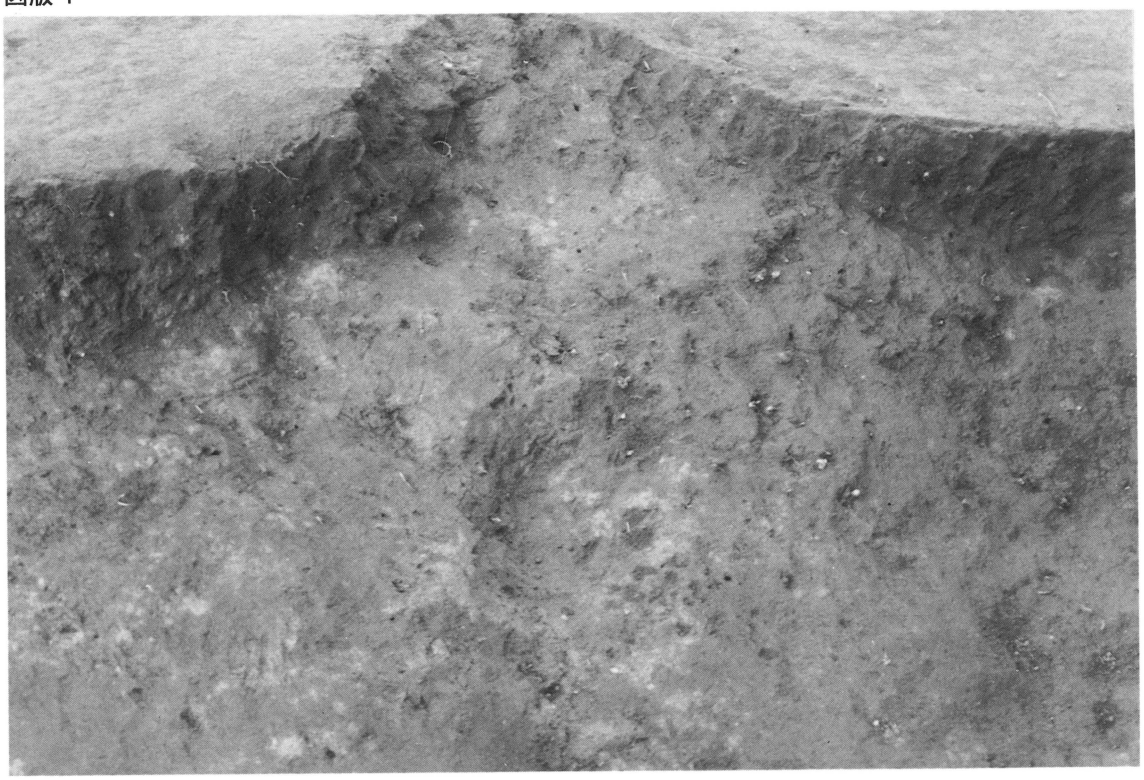
2.　同

3.　3号住居址貯蔵穴

4.　3号住居址カマド

5.　3号住居址完掘状況

図版 4



1.　4号住居址カマド

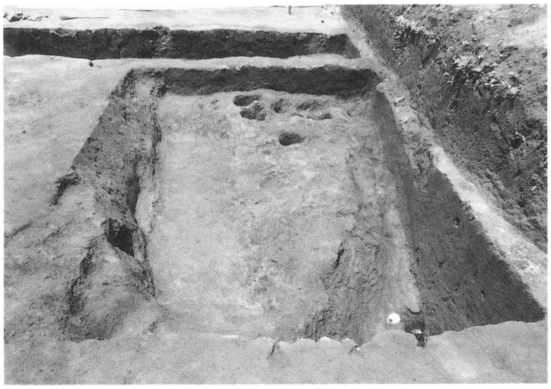
2.　4号住居址完掘状況

1.　竪穴遺構完掘状況

2.　1号土坑

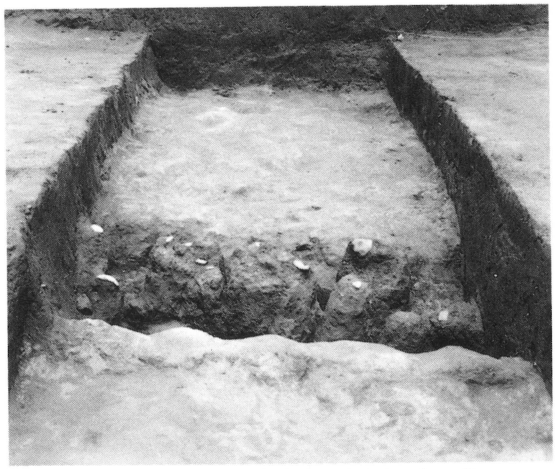
3.　2号土坑

4.　5号土坑



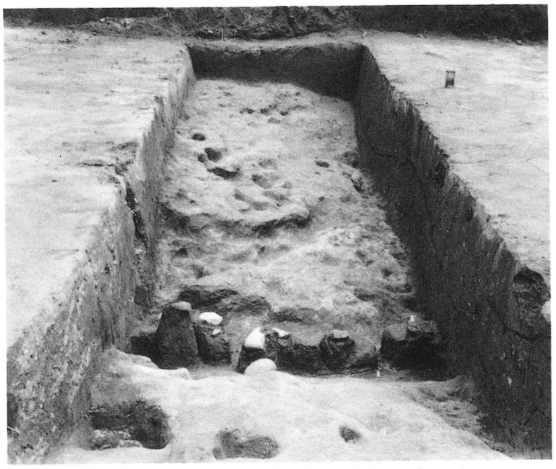
5.　8号土坑

図版 6



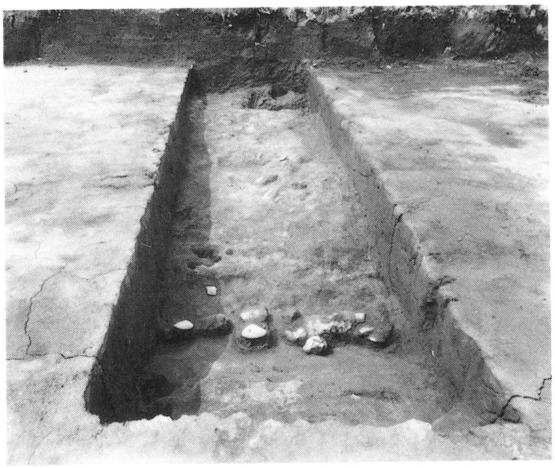
1.　1号溝Bトレンチ遺物出土状況　南→北

2.　同　西→東



3.　1号溝Cトレンチ遺物出土状況　南→北

4.　同　西→東



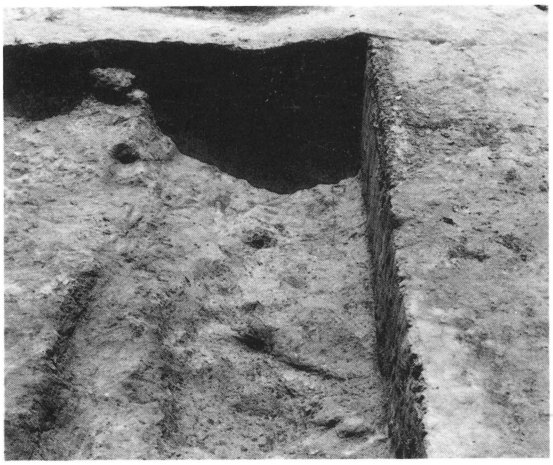
5.　1号溝Dトレンチ遺物出土状況　南→北

6.　同　西→東

1.　1号溝Eトレンチ遺物出土状況　南→北

2.　同　西→東

3.　1号溝Gトレンチ遺物出土状況　西→東



4.　同　完掘

3.　1号溝Cトレンチ完掘状況　西→東

6.1号溝Dトレンチ完掘状況　西→東

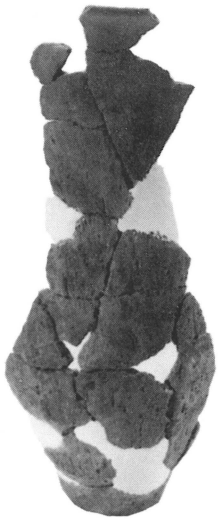
図版 8

1.　1号溝Eトレンチ完掘状況　西→東

2.　2号溝遺物出土状況　西→東

3.　発掘調査終了時全景　西→東

1 号住—1



1 号住—2

1 号住—3

1 号住—6

1 号住—4

1 号住—7

1 号住—5

1 号住居址出土遺物

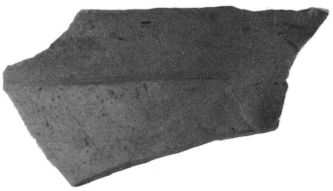
図版10

1号住—8

1号住—9

1号住—10

2号住—1



2号住—2

3号住—1

3号住—2

3号住—3

3号住—4

1・2・3号住居址出土遺物

図版11

3号住—5

3号住—6

3号住—7

3号住—8

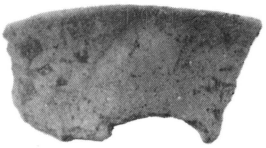
3号住—9

3号住—10

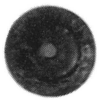
3号住—11

3号住—12

4号住—1



4号住—2



4号住—3

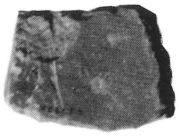
3・4号住居址出土遺物

図版12

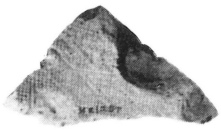
1号溝—1

1号溝—2

1号溝—3



1号溝—4



1号溝—5

1号溝—8

2号土坑

7号土坑

1号溝、2・7号土坑出土遺物

関泉樋南遺跡

印　刷　　昭和61年３月26日
発　行　　昭和61年３月31日
発行者　　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集者　　山武考古学研究所
印　刷　　株式会社　文化総合企画
　　ＴＥＬ　0476(24)1563

1-10
201
2